

施策名：人に優しい安全で安心な交通社会の実現

事業名	担当課・室名	ページ
共生のまち整備事業	建設政策課	1 / 5
身近な道改善事業	道路保全課	2 / 5
交通安全事業	道路保全課	3 / 5
高齢者交通事故防止総合対策事業	交通企画課	4 / 5
交通安全施設整備事業	交通規制課	5 / 5

# 事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	共生のまち整備事業		事業期間	平成 3 年度～令和 年度	政策区分	安全・安心を実感できる暮らしの確立
					施策区分	人に優しい安全で安心な交通社会の実現
総合評価			事業実施課(室)名	建設政策課	評価者	建設政策課長 山本 真哉

## [1. 現状・課題、目的]

現状・課題	すべての県民が自立して生き生きと生活し、人と人との交流が深まる共生型の地域社会を実現するため、社会活動への参加を妨げる行動面での障壁を取り除くことが課題である。	事業の目的	すべての県民が安心して快適に生活できる環境を整備するため、県が設置または管理する既存の公共施設のバリアフリー化およびユニバーサルデザイン化を推進する。
-------	--	-------	---

## [2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①歩道等の改良 段差解消、側溝蓋改修、視覚障がい者誘導用ブロックの設置等 ②県有施設の改修 通路のスロープ化、手すりの設置、多機能トイレの整備等 ③交通環境の整備 視覚障がい者用音響装置の設置、視覚障がい者用誘導表示の設置等	総コスト	80,000	80,000	80,000
	事業費	80,000	80,000	80,000
	(うち一般財源)	8,000	8,000	8,000
	人件費			
	職員数(人)			

## [3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果 高齢者、障がい者等にとって社会活動への参加を妨げる障壁除去が推進され、共生社会への一助となっている。
		目標値						
		実績値						
		達成率						

### [整備箇所数等]

	平成30年度 施工箇所数等	平成30年度までの 整備箇所数等
歩道等の改良延長	2.1 km	220.0 km
県有施設改修箇所	8 箇所	261 箇所
交通環境整備箇所	8 箇所	1014 箇所

### [参考] [整備箇所数等]

	平成29年度 施工箇所数等	平成29年度までの 整備箇所数等
歩道等の改良延長	3.4 km	217.9 km
県有施設改修箇所	8 箇所	253 箇所
交通環境整備箇所	8 箇所	1,006 箇所

# 事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

別紙2-4

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	身近な道改善事業	事業期間	平成 25 年度 ~ 令和 年度		政策区分	安全・安心を実感できる暮らしの確立
			施策区分	人に優しい安全で安心な交通社会の実現		
総合評価	<b>A</b>	継続・見直し	事業実施課(室)名	道路保全課	評価者	道路保全課長 藤崎 裕司

## [1. 現状・課題、目的]

現状・課題	狭い路肩の拡幅や歩行空間の改善など、地域住民にとって身近な道路に関する改善の要望が多く、より迅速に対応することが課題である。	事業の目的	道路利用者の「利便性」及び「安全性」の向上を図るため、生活道路の改善を行う。
-------	--	-------	--

## [2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①歩道や路肩に対する歩行空間の改善 路肩改善：23件、歩行空間改善：26件、視認性改善：52件、街路樹の見直し：7件	①	800,000	総コスト	864,000	864,000	864,000
	②		事業費	800,000	800,000	800,000
	③		(うち一般財源)	87,000	81,000	80,000
	④		人件費	64,000	64,000	64,000
	計	800,000	職員数(人)	6.40	6.40	6.40

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
着手箇所数(箇所)	目標値	120	120	120			100%	目標値						a	
		実績値	116	108					実績値						
		達成率	96.7%	90.0%					達成率						
	目標値								目標値						
		実績値								実績値					
		達成率								達成率					

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

## [3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
完了箇所数(箇所)	目標値	980	1,080	1,180			a	地域住民からの要望に迅速に対応しており、要望箇所については今年度108箇所の対策を行った。
	実績値	915	999					
	達成率	93.4%	92.5%					

## [4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	<b>継続・見直し</b>	例外的に継続	廃止
<ul style="list-style-type: none"> <li>依然として多い地域住民の歩道や路肩の改良など身近な生活道路に対する要望への対応</li> <li>防草対策や植樹帯の見直し等多様化する要望への対応</li> </ul>	今後の事業方針 ・本事業に対しての地元要望は多く、引き続きそのニーズにきめ細かに応えることができるよう事業を実施				

# 事務事業評価調査

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

繰越がある場合用

別紙2-9

事業名	交通安全事業		事業期間	平成	年度～令和	年度	政策区分	安全・安心を実感できる暮らしの確立
							施策区分	人に優しい安全で安心な交通社会の実現
総合評価			事業実施課(室)名	道路保全課		評価者	道路保全課長 藤崎 裕司	

## [1. 現状・課題、目的]

現状・課題	交通事故件数や負傷者数は減少傾向にあるものの、高齢化の進展に伴い、高齢者が当事者となる死亡事故が多発している。また、歩行者や自転車利用者の死亡事故の割合は依然として高い。	事業の目的	交通事故防止を図るため、歩行者・自転車・高齢者等の利用に配慮した整備を行う。
-------	---	-------	--

## [2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
	①(公)交通安全事業：歩道、自転車道、交差点改良等 ②(単)交通安全事業：道路付属物の整備、交通安全施設の維持・補修、カラー舗装等の交通弱者事故対策 ③(単)側溝整備事業：排水溝未整備箇所の整備、排水溝の断面改修、流末修繕等	総コスト	3,043,083	3,186,609
事業費		3,043,083	3,186,609	5,673,187
(うち一般財源)		604,623	578,319	495,605
(うち繰越額)		881,168	1,080,532	1,249,112
人件費				
職員数(人)				

## [3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果	
		目標値							
		実績値							
		達成率							

「交通安全施設等整備事業の推進に関する法律」に基づき、歩道・自転車歩行者道の整備、交差点の改良、道路標識の設置等、交通安全施設を整備し、通学生をはじめとする歩行者等の安全の確保と交通事故防止対策を実施した。成果については、以下の表のとおり。

### 路線等の概要

事業名	区分	平成30年度事業実施路線	事業箇所数
(公)交通安全事業	交通安全	国道213号ほか30路線	全44箇所
(単)交通安全事業	交通安全2種	国道197号ほか県内一円	県内一円
	交通安全施設維持	国道197号ほか県内一円	県内一円
	弱者事故対策	国道197号ほか県内一円	県内一円
(単)側溝整備事業	側溝整備	国道213号ほか県内一円	県内一円

# 事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

別紙2-4

事業名	高齢者交通事故防止総合対策事業		事業期間	平成27年度～令和元年度		政策区分	安全・安心を実感できる暮らしの確立		
	A			事業実施課(室)名	交通企画課		施策区分	人に優しい安全で安心な交通社会の実現	
総合評価	継続・見直し				評価者	交通企画課長 幸野 俊行			

## [1. 現状・課題、目的]

現状・課題	交通事故発生件数や負傷者数は、減少しているものの、高齢化の進展等に伴い、高齢者が当事者となる死亡事故が多発しており、高齢運転者による交通事故も増加していることから、高齢運転者・歩行者両面からの交通事故防止対策が課題となっている。	事業の目的	高齢者の交通事故の減少を図るため、高齢運転者への交通安全情報の提供、高齢者宅訪問、会合による交通安全個別指導の実施、参加・体験型講習の実施等、加害・被害両面からの対策を推進する。
-------	--	-------	---

## [2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①大分県警まごころ宅配便事業 免許更新を6ヶ月後に控えた80歳以上の高齢運転者に対し、交通安全情報や運転免許証の自主返納制度に関する情報提供を実施	①	2,199	総コスト	17,078	17,190	17,571
②シルバーサポート事業 老人クラブ連合会と連携し、クラブ未加入者の勧誘・会合時の機会を利用した交通安全個別指導を実施	②	1,505	事業費	5,078	5,190	5,571
③参加体験型講習用機材による講習(高齢運転者対策)	③	1,255	(うち一般財源)	5,078	5,190	5,571
④参加体験型講習用機材による講習(高齢歩行者対策)	④	480	人件費	12,000	12,000	12,000
危険予測能力向上のための講習用機材を活用した安全運転教育を実施	計	5,439	職員数(人)	1.20	1.20	1.20

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(元年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(元年度)	評価割合	評価
	80歳以上の免許更新予定者への発送件数(件)	目標値		10,343	13,366	13,629		13,629	40%	参加体験型講習用機材による講習(回)	目標値	360	360		
	実績値		9,595	12,464				実績値	451	403					
	達成率		92.8%	93.3%				達成率	125.3%	111.9%					
交通安全シルバーサポート活動個別指導数(人)	目標値			30,500	15,000	15,000	28%	歩行シュミレータによる講習回数(回)	目標値		70	70	70	9%	
	実績値			29,883				実績値		51					
	達成率			98.0%				達成率		72.8%					

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

## [3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(元年度)	評価	事業の成果
高齢者交通事故死傷者数(人)	目標値		1,109以下	1,091以下	1,073以下	1,073以下	a	高齢運転者に対し交通安全情報や運転免許証の自主返納支援制度に関する情報を提供するとともに、交通安全シルバーサポーターによる高齢者に対する個別指導や参加体験型講習用機材を活用した講習を行った結果、高齢者死者数は24人で前年に比べ4人減少した。
	実績値		953	879				
	達成率		114.1%	119.4%				

## [4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の免許人口増加に伴い交通事故発生件数に占める高齢運転者の割合が増加傾向</li> <li>加齢に伴う身体機能の変化や道路横断時の危険性等についての理解を促進するための交通安全教育が必要</li> </ul>	今後の方向性	終了 <b>継続・見直し</b> 例外的に継続 廃止
		今後の事業方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関・団体との更なる連携による交通安全活動の充実</li> <li>講習用機材の活用による参加・体験型交通安全教育の充実</li> </ul>

# 事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	交通安全施設整備事業		事業期間	昭和46年度～令和 年度		政策区分	安全・安心を実感できる暮らしの確立	
				施策区分	人に優しい安全で安心な交通社会の実現			
総合評価	<b>A</b>	<b>継続・見直し</b>	事業実施課(室)名	交通規制課		評価者	交通規制課長 崎尾 敬	

## [1. 現状・課題、目的]

現状・課題	交通事故発生件数及び負傷者数は減少傾向にあるものの、交通環境の著しい変化に対応するため、交通安全施設の整備等による交通事故防止対策が課題となっている。	事業の目的	県民が快適な交通社会の中で安全に暮らせるよう、道路交通規制標識・標示や信号機を整備する。
-------	---	-------	--

## [2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①事故危険箇所対策等の推進 信号機の新設(21基)、高度化(138基)	①	314,730	総コスト	795,129	781,583	880,175
②災害対策 信号機用電源付加装置(8個)	②	19,392	事業費	780,129	766,583	865,175
③交通環境の改善に伴う交通安全施設等の整備等 道路標識(73本)	③	4,672	(うち一般財源)	165,402	268,291	234,687
④歩行空間のバリアフリー化 視覚障害者用誘導標示の整備(70.2m)	④	2,246	人件費	15,000	15,000	15,000
	計	341,040	職員数(人)	1.50	1.50	1.50

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
	指定路線の信号機新設数(基)	目標値		19	21	16		92%	指定道路の道路標識の整備数(本)	目標値	113	73	300		
実績値			19	21			実績値			113	73				
達成率			100.0%	100.0%			達成率			100.0%	100.0%				
信号機電源付加装置整備数(個)		目標値		6	8	8		6%	視覚障害者用誘導標示の整備数(m)	目標値	194.4	70.2	70.0		1%
		実績値		6	8					実績値	194.4	70.2			
		達成率		100.0%	100.0%					達成率	100.0%	100.0%			

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

## [3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
交通事故死傷者数(人)	目標値		6,242以下	6,141以下	6,040以下		<b>a</b>	高齢者等の事故防止を図るため、生活道路等における道路標識等の整備を実施するとともに、信号機の新設・高度化を推進するなど、交通環境の改善を行った。
	実績値		5,376	4,648				
	達成率		113.9%	124.3%				

## [4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	<b>継続・見直し</b>	例外的に継続	廃止
<ul style="list-style-type: none"> <li>信号機や標識は年々増加しており、更新費用及び管理費用が膨らんでいる</li> <li>事故件数は減少しているが、幹線道路に比べ生活道路の減少幅が小さい</li> </ul>	今後の事業方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の総量、施設の長寿命化及び管理費を含めたトータルコストを意識した施設整備を推進</li> <li>通学路対策や高齢者対策などにおいて、生活道路により注目した事業選択の推進</li> </ul>				